

鳥取県における高齢者の歩行中死者の状況（平成22年～令和元年）

鳥取県内における過去10年間（平成22年から令和元年）の歩行中死者数は105人で、うち高齢者が73人（70%）、高齢者以外が32人（30%）と、高齢者の方が突出して多い状況にあります。

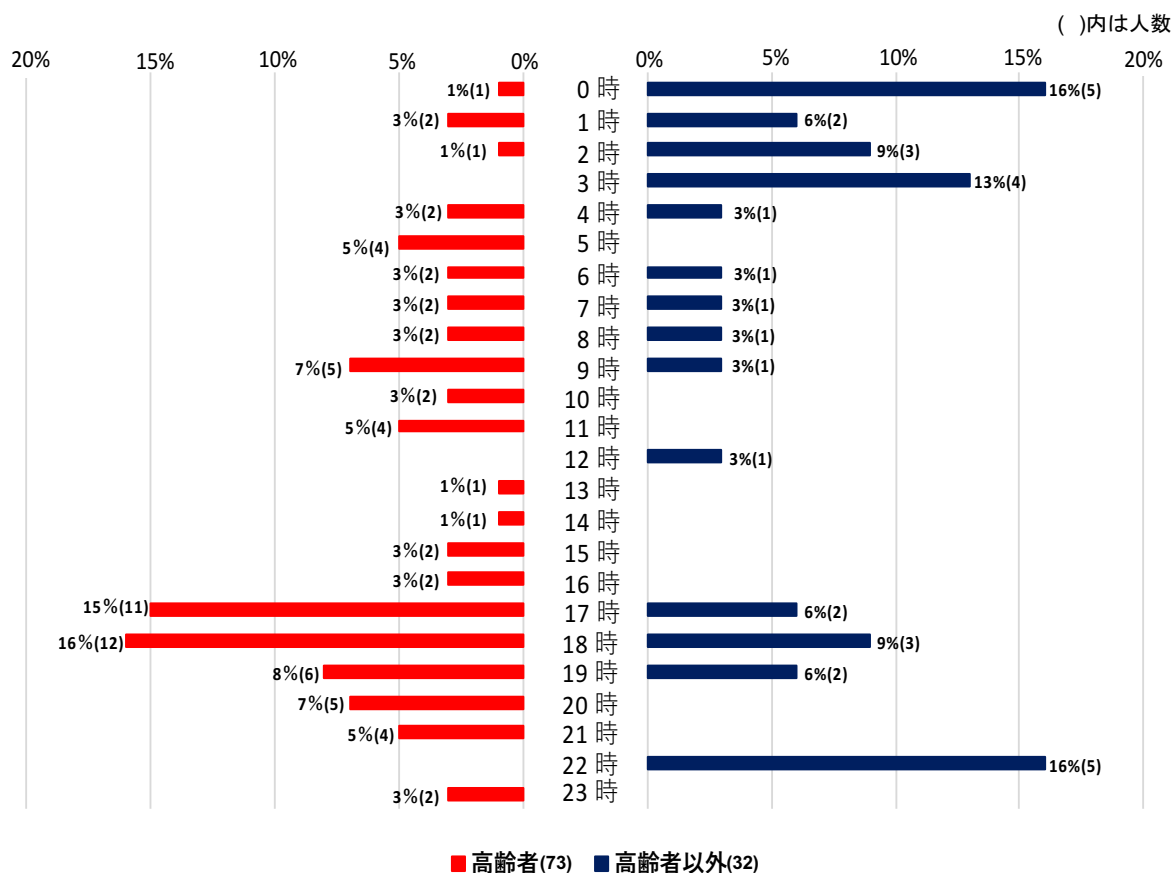
以下、高齢者の歩行中死者の状況を、高齢者以外との比較で見えます。
（各グラフの割合については、単位未満で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。）

■ 横断中・横断以外別／横断歩道上・横断歩道以外別

| | 高齢者 | 高齢者以外 | 「道路横断中」のうち | | 高齢者 | 高齢者以外 |
|--------|-----------|-----------|------------|---|-----------|----------|
| 道路横断中 | 74% (54人) | 44% (14人) | | → | 横断歩道上 | 17% (9人) |
| 道路横断以外 | 26% (19人) | 56% (18人) | 横断歩道以外 | | 83% (45人) | 50% (7人) |

高齢者の歩行中死者のうち、「道路横断中」の割合が74%、また、道路横断中の中では「横断歩道以外を横断中」の割合が83%と突出して高くなっています。

■ 時間別



高齢者は、高齢者以外と比較して「17～21時台」の割合が高く、その時間帯で全体の51%を占めています。その中でも「17～18時台」の割合が突出して高くなっています。

このことに関連して、反射材の着用(使用)状況を見てみると…。

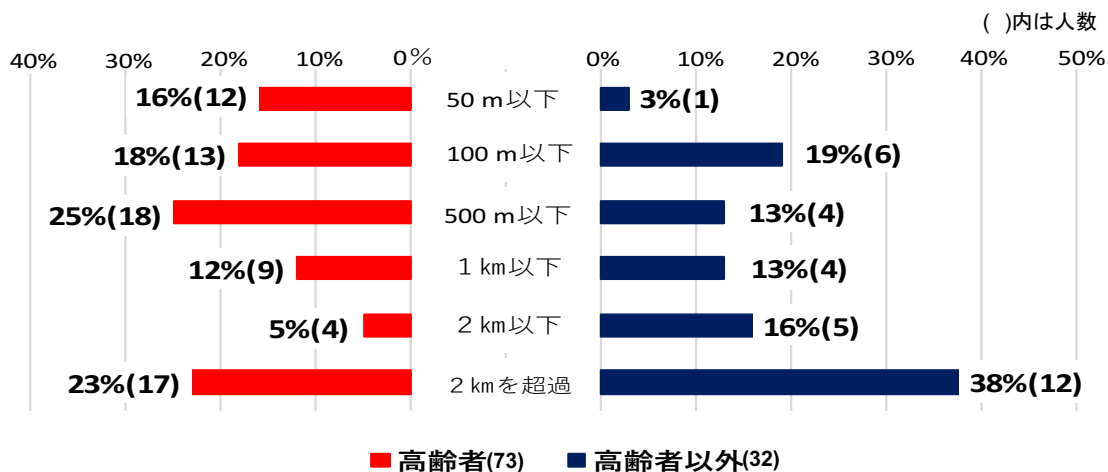
■ 反射材使用状況

| | 高齢者 | | 高齢者以外 | |
|---------------|----------|----------|---------|----------|
| | 昼 | 夜 | 昼 | 夜 |
| 反射材あり（相対部位） | 5%（1人） | 2%（1人） | 25%（1人） | 4%（1人） |
| 反射材あり（その他の部位） | 0%（0人） | 4%（2人） | 0%（0人） | 0%（0人） |
| 反射材なし | 86%（18人） | 92%（48人） | 75%（3人） | 93%（26人） |
| 調査不能等 | 10%（2人） | 2%（1人） | 0%（0人） | 4%（1人） |

※反射材あり（相対部位）：歩行者が相手当事者と相対する部位に反射材を使用していたものをいう。
 反射材あり（その他の部位）：歩行者が相手当事者と相対する部分以外の部位に反射材を使用していたものをいう。
 調査不能等：反射材の使用状況が判明しないもの等をいう。

高齢者は、夜間に反射材を使用していた割合がわずか6%です！
 ちなみに、高齢者以外も、夜間に反射材を使用していた割合がわずか4%です。

■ 自宅からの距離別



高齢者は、自宅からの距離が「50m以下、100m以下及び500m以下」の割合が全体の59%を占めていて、高齢者以外と比較して自宅から近い距離の方の割合が高くなっています。